

# YONEX Cup International Friendship Ladies Badminton Tournament 招致活動

## アメリカ遠征報告

国際親善大会海外専門部

山内 菊子

池田由紀子

### 1. 遠征の目的

旧交を温めさらに発展させること、および新規ルートの開拓。

これまで国際親善大会に参加のなかった国々を新規開拓すべく新たな大会に参加し、海外の動向を探る。

### 2. 遠征期間と内容

2018.7.17 (火) ~24 (火)

#### ① シアトルにて MS. Mesinee Mangkalakiri 氏のクラブを訪問

- ・施設見学と USA のクラブ組織について学ぶ。

#### ② ラスベガスにて World Chinese Badminton Federation (世界中華バドミントン連盟アメリカ支部)

が主催する第1回大会 (LAS VEGAS WCBFUSA INVITATIONAL BADMINTON TOURNAMENT) に参加

- ・各国の参加者と親交を深め、国際親善大会をアピールする。

### 3. レポート①：シアトル編

2008北京オリンピックアメリカ代表の Mesinee Mangkalakiri 氏(メイ氏)がコーチする Bellevue Badminton Club と Harbor Point Badminton Club を訪問。どちらもシアトル郊外に立地。

先に、Bellevue Badminton Club (ベルビューバドミントンクラブ) を訪問。いくつかのスポーツ施設が集まっている敷地の一角にバドミントン専用の体育館があった。11面あるコートではメイ氏の個人指導のほか、夏休みということもあり子供の合宿プログラムが行われ、クラブ会員が自由練習している姿もあった。体育館ロビーにはメイ氏ともう一人の男性コーチの写真と経歴が掲示してあり、元オリンピックで大学院卒のメイ氏はこのクラブの看板コーチのようだった。メイ氏の個人レッスンは1時間あたり \$ 100 で、このクラブのコーチ陣では最高額クラス。クラブの会員数は 1000 人以上。

この日メイ氏が指導していたのはインド系の中学生男子。母親に話を聞くとメイ氏の指導は厳しいがそれがいいとのこと。フロアにいるのはインド系、台湾系、ベトナム系といった富裕層アジア人がほとんどだった。

その後 Harbor Point Badminton Club (ハーバーポイントバドミントンクラブ) へ移動。こちらの受付はショップも兼ね



ており、メイ氏の現役時代のウェアが飾られていた。こちらでも小学生の合宿真最中。夏休みには会員でなくても参加できる子供のプログラムがあり、親もベビーシッターに預けるよりもという感覚で申し込んでくるとのこと。体育館はバドミントン専用コートが 12 面。オレンジ色のコートに壁が青色。天井が高く、照明は目に入らないようにコートの真上を避けて設置されている。会員数は 500 人以上。

その後、国際親善大会 2014 にポートランドの人々と参加の Martitia 氏と合流。メイ氏と二人に国際親善大会のお誘いをしたところ、Martitia 氏は参加意欲を見せてくださり、メイ氏も来日の気持ちはあるような印象を受けた。

シアトルは高級デパート Nordstrom やコーヒーチェーン Starbucks 発祥の地であり、航空機メーカー Boeing 社の工場がある。また郊外には、Microsoft の Bill Gates 氏が住む高級住宅街があり比較的富裕層が住んでいる。アメリカ人が最も住みたい都市ランキング 1 位で治安もよい。来年からはシアトルと関西国際空港の ANA 直行便が就航することもあり、今後の参加が見込まれると考える。

#### 4. レポート②：ラスベガス編

##### ① 大会について

ジュニア・一般・シニアの年齢別、合算年齢、夫婦混合など競技部門は 101 もあり、参加 401 人が 636 種目にエントリーしていた。エントリーは一人 3 種目まで可能。プログラムはなく、サンディエゴの大会と同じく前日にウェブサイトで自分の試合時間を確認するというシステム。また要項に記載はなかったが敗者復活戦があった。(サンディエゴのときもそうだったが) 特に記載がなくても行われるところをみると 1 回戦で負けたら敗者復活戦があり、最低でも 1 種目 2 試合が保証されているようである。

試合初日と二日目は午前 9 時から午後 10 時まで。最終日は午前 8 時半から開始され、途中午後 3 時～5 時まで Legends Vision という YONEX 主催のイベントが挟まれた。試合は 31 点 1 ゲーム、16 点でチェンジエズ。主審はつくがセルフジャッジ。主審は英語と中国語が両方わかる人、もしくは中国語がわかる人が横に付くなどしていた。

大会の競技レベルとしては、サンディエゴ Dave Freeman Cup よりは上だが台北 Morning Cup よりは下という印象。エアコンの風がたいへん強くそれをどう味方につけるかということが勝負を左右するという感じだった。参加選手は、ほぼアジア系で在米中国人だけでなく中国語しか話さない中国人も多数。台北 Morning Cup でお見かけする海外の方も多数いて、アメリカ以外では中国本土からの参加者が最も多いようだった。

試合の結果は二人の 45+ダブルスで優勝、山内が 100+ミックスで 3 位。台北でもそうだったが、試合の結果を残すことで招致活動がしやすくなることも痛感した。



## ② Legends Vision とは・・・

YONEX が主催する世界的に有名な選手によるエキシビジョンマッチやジュニアとの交流戦などのツアー。今回のツアーには Peter Gate、Taufic Hidayat、Lee Yong Dae、Tony Gunawan、Howard Bach、Halim Haryanto ら 6 名の元オリンピック選手などが参戦。観客は 200 人程。入場料は無料（事前登録必要）。3 vs 3 の試合、スマッシュの筒倒し、ジュニアや VIP と組んでのダブルスなどを楽しめた。

## ③ パーティ

参加者は 18 か国、約 260 人。10 人テーブルが 26、着席のビュッフェスタイル。6 時開始の予定がなかなか始まらず、7 時半に Legends が子供たちのエスコートとともに入場し、ようやくスタート。WCBFUSA 役員の紹介や表彰、中華台北羽球発展協会の呉名誉会長の挨拶、最年長 98 オブレイヤーの表彰、そして Legends たちの紹介の後、お食事タイム。その際、呉会長ご夫妻にご挨拶に行くと「せっかく来たんだから国際親善大会の PR をしては・・・」とのご提案があり、急遽スピーチの時間をいただけることになった。スピーチは英語だが少しだけ覚えたばかりの中国語も入れて我々の国際親善大会について紹介。浴衣で参加し優勝メダルも持参したおかげか（？）多くの人とお話することができ、スピーチのあとに要項をもらいに来られた方もいて、招致活動の手ごたえを感じた。



WCBFUSA 役員